

学会員（教員）研究動向 [2009.4～2010.3]

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
赤井 正二	論文(単著)	「旅行ガイドブックのなかの「見るに値するもの」—『公認東亜案内』日本篇と『テリーの日本帝国案内』の1914年—」(『立命館産業社会論集』45巻1号) 151-170頁	2009.6
秋葉 武	論文(単著)	「占領下日本のNPOの再編(上)」(『日本ボランティア学会 2008年度学会誌』, 日本ボランティア学会) 116-132頁	2009.6
	論文(単著)	「韓国における市民社会と社会的企業の生成」(『協同組合経営研究誌 にじ』627号, 協同組合経営研究所) 65-79頁	2009.9
	書評(単著)	「馬頭忠治ほか編(2009)『NPOと社会的企業の経営学』ミネルヴァ書房」(『比較経営研究』35号, 日本比較経営学会) 34-35頁	2010.3
	学会発表 (単独)	「韓国の市民社会の生成と展開: 社会的企業育成法の制定をめぐる」(日本協同組合学会第29回全国大会 個別論題報告, 酪農学園大学)	2009.9.12
	招待講演 (単独)	「協同組合の社会性—「共済政治」をめぐる—」(社)日本共済協会 共済理論研究会 第2回報告, 主婦会館プラザエフ)	2009.10.19
	招待講演 (単独・国外)	「韓国国際討論会 高齢者長期療養保険制度—現状と改善のあり方—」(主催: 保健福祉資源研究院, フリードリッヒ・エーベルト財団韓国事務所, 国会図書館・憲政記念館ホール(ソウル市))	2010.3.26
荒木 穂積	論文(単著)	「自閉症スペクトラム児と親の支援に関する調査研究—親のアンケート調査から—」(『立命館人間科学研究』19号, 立命館人間科学研究所) 29-41頁	2009.8
有賀 郁敏	翻訳(単訳)	クリスティアーネ・アイゼンベルク著「英国における『ドイツのトゥルネン』—ある文化伝播の挫折」(『立命館産業社会論集』45巻4号) 145-163頁	2010.3
池内 靖子	論文(単著)	「彼女の語りと身体—琴仙姫の映像作品をめぐる—」(李静和編『残傷の音』, 岩波書店) 238-275頁	2009.6
石田 智巳	著書(共著)	『第7章第9節, 第8章第9節 体育・保健・給食・スポーツ』(『和歌山県教育史』第1巻 通史編Ⅱ, 和歌山県教育史編纂委員会編 和歌山県教育委員会) 234-246, 469-481頁	2010.3
	論文(単著)	「『体育と子どもの認識』に関わる研究」(『体育科教育』57巻5号, 大修館書店) 26-27頁	2009.5
	論文(単著)	「バスケットボールの教材価値を考える」(『たのしい体育・スポーツ』No.229, 創文企画) 16-17頁	2009.7
	論文(単著)	「体育で言語活動の重視をどう考えるのか」(『学校教育』No.1111, 広島大学附属小学校 学校教育研究会) 6-11頁	2010.2
	学会発表 (単独)	「佐々木賢太郎の体育教育思想形成に関する研究Ⅱ—認識の節が意味するもの—」(日本教科教育学会, 金沢大学)	2009.11
伊藤 武夫	論文(単著)	「第一次世界大戦後の輸入原油精製—株式会社石油共同販売所の事例—」(『立命館産業社会論集』45巻2号) 15-37頁	2009.9
伊東 寿泰	論文(単著)	「文学的方法によるヨハネ福音書のアイロニーの分析」(『新約学研究』37号, 日本新約学会) 43-62頁	2009.8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
伊東 寿泰	論文(単著)	論評「山田耕太著：新約聖書と修辞学—パウロ書簡とルカ文書の修辞学的・文学的研究」(『新約学研究』37号, 日本新約学会) 78-84頁	2009.8
	論文(単著)	「挽地茂男著：マルコ福音書の詩学—マルコの物語技法と神学—を読む」(『ペディラヴィウム』64号, ペディラヴィウム会) 57-70頁	2009.8
	学会発表(単独)	「ヨハネ福音書の贖罪信仰」(2009年度日本聖書学研究所公開講座, 日本聖書神学校)	2009.11
文 楚雄	著書(共著)	『チャイニーズ センテンスの理解と実践』(晃洋書房) 1-116頁	2010.3
	論文(単著)	「当世ざれ歌「順口溜」の比喩表現」(『立命館文学』615号, 立命館人文学会) 265-285頁	2010.3
瓜生 吉則	著書(共著)	夏目房之介・竹内オサム編著『マンガ学入門『マンガの読者』『ネットとまんが』『梶原一騎』』(ミネルヴァ書房)	2009.4
漆原 良	論文(共著)	“Very low-frequency rTMS modulates SEPs over the contralateral hemisphere” (The Journal of Medical Investigation, Vol.57 No.1-2) pp.109-113	2010.2
遠藤 保子	論文(単著)	「スポーツと開発教育—モーションキャプチャを利用したナイジェリアの舞踊を事例とした教材と指導計画—」(『アジア体育人類学論壇論文集—体育・人類・文化—, 亞洲體育人類學會) 32-38頁	2009.11
	論文(共著)	“African dance and development education” (International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture, Global COE program Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures) pp.75-92	2010.1
	学会発表(単独)	「鶴見和子の舞踊観2」(61回舞踊学会大会一般研究発表, 筑波大学)	2009.12.5
	学会発表(共同)	“African dance and development education” (International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture, Ritsumeikan Univ.)	2010.1.23
	学会発表(単独)	「ラリベラ(エチオピア)の子どもたち」(日本スポーツ人類学会例会, 早稲田大学文学学術院)	2010.2.26
	学会発表(共同)	「スポーツと開発教育—ガーナの舞踊を対象にした実践研究—」(日本スポーツ人類学会第11回大会一般研究発表, 名桜大学)	2010.3.29
	大谷いづみ	その他(単著)	「死の教育」(望月昭・中村正・サトウタツヤ編著『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房) 95-96頁
その他(単著)	「尊厳死」(望月昭・中村正・サトウタツヤ編著『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房) 139-140頁	2009.4	
その他(単著)	「「先哲の基本的な考え方」の学習」(日本公民教育学会編『公民教育事典』, 第一学習社) 122-123頁	2009.6	
その他(単著)	「「科学技術と倫理」の学習」(日本公民教育学会編『公民教育事典』, 第一学習社) 136-137頁	2009.6	
論文(単著)	「「尊厳ある死」を望むこと」(『福音と世界』特集:「生きるに価しない」とされた生命へのまなざし, 新教出版社) 44-45頁	2009.5	
論文(単著)	「「尊厳死」思想の淵源—J. フレッチャーの Anti-Dysthanasia 概念とバイオエシックスの交錯」(小松美彦・香川千晶編『メタバイオエシックスの構築—生命倫理を問直す』, NTT 出版) 207-233頁	2010.3	

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
大谷いづみ	学会発表 (単独)	「高校「倫理」の教育内容と教科書編集に関わる諸問題?—「いま」「ここ」で「知を愛すること／善く生きること」を問う営み」(ワークショップ「高等学校「哲学・倫理」の現状と課題」日本哲学会第68回大会, 慶應義塾大学)	2009.5
	学会発表 (単独)	「パッケージ化する〈よき死〉の作法」(死生学vs.生存学シンポジウム「対話・1:死生を学ぶ?」, 東京大学)	2009.9
	学会発表 (単独)	「J. フレッチャーとバイオエシックスの交錯—フレッチャーの anti-dysthanasia 概念」(「生命倫理の歴史的現在—メタバイオエシックスの視点から」, 日本生命倫理学会第21回研究大会, 東洋英和女学院大学)	2009.11
大野 威	論文(単著)	「フォード自動車における労働条件引き下げの実態とその影響: 2009年におこなわれた労働協約の改訂を中心にして」(『立命館産業社会論集』45巻2号) 1-14頁	2009.9
	学会発表 (単独)	「フォーディズムの終焉?: 米3大自動車メーカーにおける労働条件の大幅見直しの実態とその含意」(社会政策学会 第119回大会, 金城大学)	2009.11
岡田 まり	論文(単著)	「相談援助の技法」(『新 社会福祉援助の共通基盤〈上〉第2版』, 中央法規出版) 260-271, 275-277頁	2009.4
	論文(単著)	「治療モデル・環境モデル・生活モデルに関する相談援助演習」(社団法人日本社会福祉士養成校協会監修・白沢政和・福山和女・石川久展編集『社会福祉士相談援助演習』, 中央法規出版) 142-145頁	2009.9
	論文(単著)	「ソーシャルワークにおける調査とは何か」「ソーシャルワークにおける質的評価」(『改訂 保健医療ソーシャルワーク実践〈3〉』, 中央法規出版) 2-7, 33-44頁	2009.11
	論文(単著)	「事例研究・事例分析」(『新・社会福祉士養成講座〈8〉相談援助の理論と方法2』, 中央法規出版) 258-281頁	2010.2.1
	学会発表 (共同)	水嶋美之, 高木俊介, 三品桂子, 岡田まり, 佐藤純, 岡田愛「急性期を在宅で支える—ACT-K(京都地区)の実践から—」(日本精神障害者リハビリテーション学会第17回大会, 日本大学工学部)	2009.11
	学会発表 (共同)	三品桂子, 佐藤純, 岡田まり, 杉原努「米国におけるACTスタッフの研修の内容と研修方法—ACTチームスタッフに求められる理念と実践スキルの視点から—」(日本精神障害者リハビリテーション学会第17回大会, 日本大学工学部)	2009.11
	学会発表 (共同)	佐藤純, 岡田愛, 杉山真奈美, 廣瀬文, 三品桂子, 岡田まり, 杉原努「メリデン版訪問家族支援のわが国への導入の課題—ACTスタッフの研修プログラム作成のプロセスの中で見えてきたこと」(日本精神障害者リハビリテーション学会第17回大会, 日本大学工学部)	2009.11
	学会発表 (共同)	上北恵子, 岡田まり「希少難病患児を在宅でケアする母親のニーズ」(日本公衆衛生学会第68回総会, 奈良県文化会館)	2009.11
岡本 茂樹	教育実践報告 (単著)	「本音を語ることによる気づき」(『刑政』1402号, 矯正協会) 136頁	2009.4.1
	学会発表 (単独)	「自棄的な女子学生に対するロールレタリングを用いた面接過程」(日本ロールレタリング学会第10回大会, 徳島大学)	2009.8.22

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡本 茂樹	学会発表 (単独)	「エンプティチェア・テクニックとロールレタリングを併用した受刑者に対する心理面接の試み」(*「優秀演題賞」受賞)(日本交流分析学会第34回大会, 横浜市開港記念会館)	2009.10.3
小川 栄二	論文(単著)	「高齢者虐待と虐待予防の取組み」(『社会福祉士シリーズ13高齢者福祉介護福祉・高齢者に対する支援と介護保険制度』, 弘文堂) 195-216頁	2009.4
	調査報告 (共著)	「介護保険制度における『軽度者』, 訪問介護におけるサービス制限に関する緊急アンケート報告書」(高齢者の援助拒否・社会的孤立・潜在化問題研究会) 1-56頁	2009.4
	調査報告 (共著)	「地域包括支援センターにおける介護予防・地域支援事業実施状況に関する調査報告書(第1次集計)」(高齢者の援助拒否・社会的孤立・潜在化問題研究会) 1-3, 50-62頁	2009.11
奥村 信幸	論文(単著)	「『2009 米ニュースメディアの現状』報告から ジャーナリストが消えていく ワシントンで見たこと, 聞いたこと」(『Journalism』, 朝日新聞社) 62-67頁	2009.5
	論文(単著)	「米ニュースメディアの地殻変動 その1 マルチメディア・ジャーナリストの試行錯誤」(『放送レポート』219号, メディア総合研究所) 22-26頁	2009.7
	論文(単著)	「米ニュースメディアの地殻変動 その2 ニュースとは何かを問い直す」(『放送レポート』220号, メディア総合研究所) 32-36頁	2009.9
	論文(単著)	「新聞は「時間との競争」に勝てるか—インターネットによる構造変化・合理化で進む取材現場の弱体化」(『新聞研究』, 社団法人・日本新聞協会) 13-17頁	2009.9
	論文(単著)	「BPO(放送倫理・番組向上機構)の機能と社会的意義—放送倫理検証委員会の取り組みを中心に—」(『立命館産業社会論集』45巻4号) 1-30頁	2010.3
	その他(単著)	「安易な実況レポート見直す時 制作構造洗い直す勇断を(メディア時評)」(『民間放送』, 日本民間放送連盟)	2009.12
	学会発表 (単独)	「ネットと選挙の諸問題を概観する」(ICPC(情報通信政策研究会議)2009年度研究会, 慶應義塾大学)	2009.5
	学会発表 (単独)	「米大統領選の「オバマ寄り報道」を検証する—Project for Excellence in Journalismのニュース内容分析をもとにした考察」(日本マスコミュニケーション学会春季大会 個人発表, 立命館大学)	2009.6
	学会発表 (単独)	「ジャーナリストが消えていく 米ニュースメディア報告」(朝日新聞「ジャーナリスト学校」勉強会, 朝日新聞東京本社)	2009.7
	学会発表 (単独)	「ジャーナリズムの危機—アメリカ・メディアの現状と新聞の未来」(早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコース 講演会, 早稲田大学)	2009.7
	学会発表 (単独)	「テレビの未来を予測する—ビジネスモデル・コンテンツと文化・ジャーナリズム」(国際大学 GLOCOM 研究ワークショップ, 国際大学)	2009.9
	学会発表 (単独)	「BPO/放送倫理・番組向上機構と放送の自律」(日本マスコミュニケーション学会 秋季大会 メディア倫理・法制研究部会分科会, 慶應義塾大学)	2009.10
	学会発表 (単独)	「新しい時代の放送・通信と政府」(日本マスコミュニケーション学会メディア倫理・法制研究部会/国際大学 GLOCOM 共催勉強会, 国際大学)	2010.2

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
小澤 亘	論文(単著)	“How to collaborate between Univ. and NGO to empower the Youth: A Challenge depending on the Data of Comparative Study on Volunteering Culture between Japan, Korea and Canada” (The 6 th ISTR Asian Pacific Regional Conference Proceedings, ISTR Asian Pacific Regional Conference)	2009.11
	研究ノート (単著)	““Foreign Citizens” and Public Sphere in Japan” (『立命館産業社会論集』45巻3号) 43-52頁	2009.12
	学会発表 (単独)	““Foreign Citizen’ and Public Sphere in Japan” (International Conference on East Asian Public Sphere and Civil Society, “Shinchon, Taiwan”)	2009. 9
	学会発表 (単独)	““How to collaborate between Univ. and NGO to empower the Youth: A Challenge depending on the Data of Comparative Study on Volunteering Culture between Japan, Korea and Canada”” (The 6 th ISTR Asian Pacific Regional Conference, “Taipei, Taiwan”)	2009.11
	学会発表 (単独)	「ボランティアリズムと教育」(国際ボランティア学会第11回大会, 総合地球環境学研究所)	2010. 3
小原 豊	論文(単著)	「ケースメソッドによる算数の教科内容知識の拡大に関する実践」(日本科学教育学会第33回年回論文集, 日本科学教育学会) 259-260頁	2009. 8
	論文(単著)	「ケースメソッドによる文科系学生の統計的リテラシー向上に関する教授実験」(数学教育学会2009年度秋季例会論文集, 数学教育学会) 29-30頁	2009. 9
	論文(単著)	“Case Method for Japanese Prospective Elementary Teachers: Encourage Professional Development for Early Mathematics” (Proceeding of International Conference of Educational Research, Learning Community for Sustainable Development, Vol.1, Learning Community for Sustainable Development) pp.154-159	2009. 9
	論文(共著)	OHARA, Y., EDAHIRO, K. “Effects of Case Method in Elementary Teacher Training: Approach to Authentic Classroom Practice” (NUE Journal of International Educational Cooperation, Vol.5, Naruto university of Education) pp.41-46	2010. 3
	論文(共著)	EDAHIRO, K., OHARA, Y. “Investigation of Experiential Learning in Higher Education in Japan: Focusing on the Career Design of Pre-Service Teachers.” (NUE Journal of International Educational Cooperation, Vol.5, Naruto university of Education) pp.47-53	2010. 3
	学会発表 (共同・国外)	Saito, N. Maitree, I. OHARA, Y. “The Mountain-Climbing Learning Method: New Practical Approach for Creativity Learning Community for Sustainable Development” (Poster session of <i>Learning Community for Sustainable Development (at Khon Kaen Univ.)</i> Khon Kaen 大学)	2009. 9
	学会発表 (単独)	「文科系学生の教科内容知識の変容に関する実践：ケースメソッドを通して」(第47回近畿数学教育学会春季例会, 姫路教育研究所)	2010. 3
	角田 将士	著書(共著)	橋本康弘編著『教室が白熱する“身近な問題の法学習”15選』(明治図書) 89-94頁

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
角田 将士	著書(单著)	『戦前日本における歴史教育内容編成に関する史的研究—自国史と外国史の関連を視点として—』(風間書房) 全257頁	2010.3
	その他(单著)	「“日本の世界遺産なら” ベスト5」(『社会科教育』605号, 明治図書)	2009.8
	学会発表 (単独)	「戦後初期における社会科歴史教育論の特質—戦後歴史教育論研究Ⅱ: 昭和26年版中学校「日本史」の理念と実態—」(全国社会科教育学会第58回全国研究大会 (自由研究発表), 弘前大学)	2009.10
	学会発表 (単独)	「教科教育学研究としての社会科教育史研究とは—諸研究の研究目的に着目して—」(学校教育研究会第13回定例会, 立命館大学)	2009.11
金山 勉	その他(单著)	「米の地デジ化, 三度目の正直成るか」(『メディア展望』568号, 新聞通信調査会) 26頁	2009.5.1
	その他(单著)	「ニュース報道の行方を楽観」(『メディア展望』570号) 17頁	2009.7.1
	その他(单著)	「米新 FCC 委員長にゲナコウスキー氏」(『メディア展望』571号) 13頁	2009.8.1
	その他(单著)	「NYT, 経営改善に向け対策急ぐ」(『メディア展望』572号) 13頁	2009.9.1
	その他(单著)	「米 CBS ニュースのクロンカイト氏死去」(『メディア展望』573号) 31頁	2009.10.1
	その他(单著)	「米調査機関, 景気後退報道を分析」(『メディア展望』574号) 13頁	2009.11.1
	その他(单著)	「加速する米紙の販売不振」(『メディア展望』575号) 11頁	2009.12.1
	その他(单著)	「米 ABC, 朝夕の顔が交代」(『メディア展望』576号) 13頁	2010.1.1
	その他(单著)	「米スポーツ専門局が初の3DTV サービス」(『メディア展望』577号) 11頁	2010.2.1
	その他(单著)	「米ニューメディア, 情報発信では限定的役割」(『メディア展望』578号) 35頁	2010.3.1
権 学俊	論文(单著)	「近代日本のラジオ体操と「身体」の政治」(『日本語文学』45号, 日本語文学会) 457-458頁	2009.5
	論文(单著)	「戦時期日本における「幻の東京オリンピック」の祝祭性と政治性に関する考察」(『日本学研究』28号, 檀国大学校日本研究所) 329-350頁	2009.9
	論文(单著)	「国家権力装置としての国民体育大会に関する一考察」(『日本文化研究』32号, 東アジア日本学会) 25-44頁	2009.10
	論文(单著)	「日本の大国化とネオナショナリズムに関する一考察」(『日本語文学』47号, 日本語文学会) 297-326頁	2009.11
	論文(单著)	「国民体育大会の研究における論点と課題」(『スポーツ社会学研究』18巻1号, 日本スポーツ社会学会) 98-101頁	2010.3
黒田 学	著書(共著)	『障害のある子ども・家族とコミュニティケア—滋賀・日野町父子心中事件を通して考える』(クリエイツかもがわ) 全104頁の内, 20-22頁, 58-73頁, 79-81頁を分担執筆	2009.11
	論文(单著)	「国連・障害者権利条約と教育の課題—インクルーシブ教育をめぐる—」(『日本ベトナム障害児教育・福祉研究』第7号, 日本ベトナム友好障害児教育福祉セミナー, 文理閣) 17-21頁	2009.7
	調査報告 (共著)	『ベトナムの知的障害児と家族の福祉ニーズと地域福祉活動に関する調査研究』(平成18年度～平成21年度, 科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書) 全80頁のうち, 1-14頁, 33-80頁を執筆	2010.3
	書評(单著)	“Introducing of Social Research and Statistics for PWD, Family Life and Public Health published in Vietnam, 2008” (『日本ベトナム障害児教育・福祉研究』第7号, 日本ベトナム友好障害児教育福祉セミナー, 文理閣) 87-96頁	2009.7

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
黒田 学	書評(単著)	「『朗読者』」(『障害者教育科学』第59号, 科学的障害者教育研究会, かがわ出版) 72-75頁	2009. 7
	書評(単著)	「自著を語る『障害のある子ども・家族とコミュニティケア—滋賀・日野町父子心中事件を通して考える』」(『障害者教育科学』第60号, 科学的障害者教育研究会, かがわ出版) 74-76頁	2010. 1
	その他(単著)	「特集にあたって—『特別支援学校学習指導要領』改訂をどう読むか, 障害児教育をめぐる動向と運動—」(『障害者教育科学』第59号, 科学的障害者教育研究会, かがわ出版) 2頁	2009. 7
斎藤 真緒	著書(共著)	『ボランティアの臨床社会学の可能性—新たな分析視角の構築にむけて』(『ボランティアの臨床社会学—あいまいさに潜む「未来」—, クリエイツかがわ) 90-212頁	2009. 4
	論文(単著)	「男が介護するということ—家族・ケア・ジェンダーのインターフェイス」(『立命館産業社会論集』45巻1号) 171-188頁	2009. 6
	論文(単著)	「日本における男性介護者支援の課題—「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」の取り組みから—」(『生活協同組合研究』403号, 生協総合研究所) 41-48頁	2009. 9
	論文(単著)	「イギリスの家族介護者支援の展開」(『comcom』511, 日本生活協同組合連合会医療部会) 24-25頁	2010. 3
	学会発表 (単独)	“Transformation of informal care and gender male carers in Japan” (BSA (British Sociological Association) Ageing, Body and Society Study Group Conference: The British Library Conference Centre Gender, Ageing and the Body, The British Library Conference Centre)	2009. 7
	学会発表 (単独)	“Fragile love? male caregivers in Japan” (The 18 th Annual Conference on Men and Masculinities, Atlanta)	2010. 3
	坂田 謙司	著書(共著)	福間良明, 難波功士, 谷本奈穂編著『博覧の世紀』(『北海道の地方博覧会 中央と地方の眼差しの交差』, 梓出版社) 239-272頁
著書(共著)		高井昌士・谷本奈穂編『メディア文化を社会学する』(『メディア遊びとミニFM マイナーメディアの文化論』, 世界思想社) 188-224頁	2009.12
坂本 利子	学会発表 (単独・国外)	“Blackness in Nadine Gordimer’s Fiction” (African Literature Association 35th Annual Conference, アメリカ合衆国バーモント州立大学)	2009. 4
崎山 治男	論文(単著)	「感情労働論の系譜, および感情労働論の可能性」(『ケアの仕事をする人のケア』, 財団法人たんぽぽの家) 6-10頁	2009. 4
	論文(単著)	“When Emotional Labour becomes to ‘good’ The usage of emotional intelligence” (International Journal of Work, Organization and Emotion, 3-2) pp.174-185	2009.12
	論文(単著)	「感情を社会学的に考える」(早坂裕子, 広井良典, 天田城介編著『社会学のつばさ』, ミネルヴァ書房) 187-202頁	2010. 3
	学会発表 (共同・国外)	“An experience of Buddhism based palliative care 1: How nurses see the role of Bonze at Vihara Unit?” (European Association of Palliative Care 第11回大会, オーストリア・ウィーン市)	2009. 5

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
崎山 治男	学会発表 (共同・国外)	“An experience of Buddhism based palliative care 2: How Buddhism priest see their Role in CPU?” (European Association of Palliative Care 第11回大会, オーストリア・ウィーン市)	2009.5
	学会発表 (共同・国外)	“An experience of Buddhism based palliative care 3: Reconsidering the Social Consciousness of Religion” (European Association of Palliative Care 第11回大会, オーストリア・ウィーン市)	2009.5
	学会発表 (単独)	「仏教ホスピスの可能性と限界」(第82会日本社会学会, 立教大学)	2009.10
櫻谷真理子	論文(単著)	「イギリスの児童保護の現状と課題」(『立命館産業社会論集』45巻1号) 35-51頁	2009.6
	論文(単著)	「子どもたちの『困った行動』の理解と援助」(季刊『ひろば』No.159, ひろば・京都の教育刊行委員会) 4-9頁	2009.8
	その他(単著)	図書紹介:「虐待を認めない親への対応—リゾリユーションズ・アプローチによる家族の再統合—」(日本生活指導学会『生活指導研究 No.26』, エイデル研究所) 169-171頁	2009.1
	その他(共著)	「愛着障害」3頁, 「児童虐待」93-94頁, 「児童相談所」94-95頁(望月昭・中村正・サドウタツヤ編著『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房) 全247頁	2009.4
	学会発表 (単独)	「イギリスにおける児童虐待対応の今日的課題を探る」(第15回日本子ども虐待防止学会, 大宮ソニックシティ)	2009.11.28
笹野恵理子	論文(単著)	「学校音楽教育における潜在的カリキュラム研究の可能性—カリキュラム経験研究の視角と教師のカリキュラム経験—」(日本音楽教育学会編『日本音楽教育学会設立40周年記念論文集 音楽教育学の未来』, 音楽之友社・日本音楽教育学会) 238-251頁	2009.10.10
	論文(共著)	「音楽表現における身体」(『学校音楽教育研究』第13号, 学校音楽教育実践学会) 56-76頁	2010.3.31
	学会発表 (単独)	「学校音楽教育における潜在的カリキュラム研究の意義と可能性—教師のカリキュラム経験研究の視角—」(日本カリキュラム学会第19回大会, 神田外国語大学)	2009.7.10
	学会発表 (単独)	「音楽教育研究において潜在的カリキュラム研究とは何か(5)—カリキュラム経験研究—」(日本音楽教育学会第41回大会, 広島大学)	2009.10.4
	学会発表 (単独)	「小学校教員養成課程における学生の音楽経験」(第141回関西楽理研究会, 京都教育大学)	2009.12.12
鎮目 真人	学会発表 (単独)	「2009年財政検証による基礎年金制度の給付水準と改革の方向—漸進的制度化変化類型に依って—」(日本社会福祉学会第57回全国大会, 法政大学)	2009.10
篠田 武司	著書(共編著)	『安心社会を創る—ラテンアメリカ市民社会の朝鮮から学ぶ—』(新評論) 全315頁	2009.7
	論文(単著)	「安心社会とワーク・ライフ・バランス」(UNI-Apro アジア大会報告集, UNI-Apro) 1-10頁	2009.5
	調査報告 (単著)	「ワーク・ライフ・バランスの企業内実施に関する瑞, 蘭, 日の比較研究」(科研報告集) 全317頁	2010.3
	その他(単著)	「絆が深まる未来へ—ビジョンを語る—」(『REPORT』, 情報労連) 18-19頁	2009.6

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
篠田 武司	その他(単著)	「第三者評価」(東芝テック CSR 報告書, 東芝テック)	2009.7
	その他(単著)	「ラテンアメリカの挑戦」(『京都新聞』, 京都新聞社)	2010.1.29
	学会発表 (共同)	「スウェーデンにおけるワーク・ライフ・バランスについて」(北ヨーロッパ学会, 大阪大学)	2009.11
高木 正朗	その他(共著)	『仙台藩明治三年北海道移住土族并田家来の人口分析』(第78回社会経済史学会報告資料集, 自費出版) 全251頁	2009.9
	学会発表 (共同)	「仙台藩明治三年北海道移住土族并田家来の人口分析」(第78回社会経済史学会全国大会, 東洋大学)	2009.9
	学会発表 (単独)	「近世権力は財産の移転と住民の移動・異動をどう把握したか—17世紀と19世紀の「人別改帳」を素材とした検討—」(近世地域情報研究会, 香川大学)	2010.1
竹内 謙彰	論文(単著)	「高機能広汎性発達障害児のニーズ理解と9, 10歳の発達の節」(『心理科学』30巻2号, 心理科学研究会) 11-22頁	2010.2
	学会発表 (共同)	「自閉症スペクトラム児の親支援のための調査研究」(日本保育学会第62回大会, 千葉大学)	2009.5
	学会発表 (共同)	「東アジアにおける発達障害児とその家族ニーズの比較研究—日・中・越3か国の調査から—」(日本発達心理学会第21回大会, 神戸国際会議場)	2010.3
	学会発表 (共同)	「乳児期後半から幼児期前半における模倣と遊びの発達—自閉症スペクトラム児の事例より—」(日本発達心理学会第21回大会, 神戸国際会議場)	2010.3
竹濱 朝美	論文(単著)	「ドイツの再生可能エネルギー法による太陽光発電促進とその経済効果」(『日本の科学者』44巻4号) 30-35頁	2009.4
	論文(単著)	「サステナビリティと自然エネルギー2: ドイツ再生可能エネルギー電力の普及政策とその経済効果, 風力発電産業および太陽光発電産業の成長」(『サステナ』11号, サステナビリティ学連携研究機構) 64-67頁	2009.4
	論文(単著)	「サステナビリティと自然エネルギー・3: 住宅用太陽光発電に対する電力買取費用の試算」(『サステナ』12号, サステナビリティ学連携研究機構) 66-69頁	2009.7
	論文(単著)	「サステナビリティと自然エネルギー・4: 再生可能エネルギー導入による地域社会のエネルギー自立, 経済自立」(『サステナ』14号, サステナビリティ学連携研究機構) 68-71頁	2010.1
	論文(単著)	「太陽光発電に対するフィード・イン・タリフの制度設計に関するドイツ型と日本型の比較, 買取費用の試算」(平成21年度・環境省研究助成報告書, 低炭素社会へ向けての各種経済的手法の短・中・長期的及びポリシーミックス効果の評価, 代表・佐和隆光, 報告書第3章所収) 45-89頁	2010.3
	論文(単著)	「炭素社会実現に向けた住宅用太陽光発電に対する Feed-in Tariff 導入シナリオ」(『政策科学』特別号「サステナビリティ学への誘い」17巻, 立命館大学政策科学部) 93-123頁	2010.3
	研究発表 (単独)	「太陽光発電普及政策をめぐるドイツ Feed-in-Tariff の経験: 制度設計, 収益性, 波及効果」(日本環境学会, 2009年第35回研究発表会)	2009.6
	研究発表 (単独)	「太陽光発電の普及政策に関する日本とドイツの比較: Feed-in-Tariff の制度設計に関するドイツの経験から」(環境技術学会, 第9回研究発表大会)	2009.9

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
竹濱 朝美	研究発表 (単独)	「低炭素社会実現のための住宅用太陽光発電導入シナリオ: feed-in-tariffの設計と買取費用」(日本消費経済学会, 第34回全国大会, 日本大学商学部キャンパス)	2009.10
	研究発表 (共同)	「低炭素社会構築に資する再生可能エネルギー政策に関する国際比較と提案」(日中シンポジウム, 低炭素社会の構築と日中間国際連携)	2010.1
津田 正夫	論文(単著)	「蜃気楼としてのジャーナリズムと市民公共圏の回復—実践／研究の中間総括に代えて—」(『立命館産業社会学論集』45巻1号) 55-74頁	2009.6
	論文(単著)	「戦争報道とメディアのゆくえ—プロパガンダと競争を越えて—」(『平和学を学ぶ人のために』, 世界思想社) 228-246頁	2009.7
	翻訳(共訳)	ラルフ・エンゲルマン「パブリック・アクセス—ジョージ・ストーニーの見解」『アメリカの公共放送政治史』第11章(『立命館産業社会学論集』45巻3号) 107-132頁	2009.12
	講演(単独)	「パブリック・アクセスの現況と課題」(日本弁護士連合会人権大会第一部会研究会, 日本弁護士会館)	2009.5.13
	講演(単独)	「メディアの役割を問い直す—市民社会のツールとして—」(第55回日本母親大会, 立命館大学)	2009.7.26
	講演(単独)	「これでええのん? メディアとのつきあい 第62回新聞週間記念の集い」(日本新聞協会, 朝日生命ホール)	2009.10.17
	講演(単独)	「どうなる, どうする放送の『独立行政委員会』—市民主権のコミュニケーション基本法を—」(日本ジャーナリスト会議関西, 大阪市立いきいきエイジングセンター)	2009.12.5
筒井 淳也	学会発表 (共同・国外)	“Is there a Plan B?: How Transitioning Students at Japanese Universities Perceive Risks in Working Life and How They Plan to Manage Them” (SCARR conference “Managing the Social Impacts of Change from a Risk Perspective”, Beijing Normal University)	2009.4
	学会発表 (単独・国外)	“Asymmetric Mixture: Determinants of the Attitude toward Inter-marriage in Japan” (The 3rd Gendering Asia Network Conference, University of Helsinki)	2009.5
	学会発表 (単独)	“Changing Agenda in Work and Family in Japan” (International Workshop: Work and Family in Korea and Japan, Ritsumeikan University)	2010.3
津止 正敏	著書(共著)	『ベト・ドクがおしえてくれたもの—分離手術成功20周年と平和へのメッセージ—』(江崎智里・津止正敏・藤本文朗, クリエイツかもがわ) 全150頁	2009.4
	著書(共著)	『ボランティアの臨床社会学—あいまいさに潜む「未来」』(津止正敏・斎藤真緒・桜井政成, クリエイツかもがわ) 全289頁	2009.4
	著書(共著)	『ボランティア教育の新地平—サービスマーケティングの原理と実践』(桜井政成・津止正敏, ミネルヴァ書房) 全286頁	2009.10
	著書(共著)	『ひとりで暮らす要介護高齢者—語られた介護と暮らし—』(津止正敏・草薙千尋・岸佑太, 立命館大学人間科学研究科) 全189頁	2009.12
	論文(単著)	「家族介護者支援のリアリティ—男性介護者研究からの提言」(『高齢者虐待防止研究』第5巻第1号, 日本高齢者虐待防止学会) 32-38頁	2009.3
	論文(単著)	「介護で孤立しないネットワークづくり—男性介護者の介護実態と支援実態から」(『月刊地方自治職員研修』通巻591号, 公職研) 17-19頁	2009.8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
津止 正敏	学会発表 (単独)	「男性介護者の実態からみた介護者支援策の課題」(医療福祉研究会, 京都私学会館)	2009.7.5
仲井 邦佳	論文(単著)	“En torno al status de las Comparativas: <i>el mismo...que y otro...que del español</i> ” (スペイン語比較構文 <i>el mismo...que</i> と <i>otro...que</i> の位置づけについて) (『立命館言語文化研究』21巻2号, 立命館大学国際言語文化研究所) 137-149頁	2009.11
中井 美樹	論文(単著)	‘Socioeconomic and Age Differences in Women’s Cultural Consumption: Multidimensional Preference Analysis.’ (Cooperation in Classification and Data Analysis, Springer, Heidelberg-Berlin) pp.179-187	2009.9
	論文(共著)	「フリーソフトウェアを用いた Web 調査の実施—社会調査実習における活用事例から—」(『立命館産業社会論集』45巻3号) 69-82頁	2009.12
	学会発表 (単独・国外)	‘Social Stratification and Consumption Patterns: Cultural Practices and Lifestyles in Japan’ (Classification and Data Anaysis Group (CLADAG), Universita di Catania)	2009.9.9 -11
長澤 克重	論文(単著)	「全労働生産性と全要素生産性からみた IT 化の経済効果」(『立命館産業社会論集』45巻3号) 1-16頁	2009.12
	学会発表 (単独)	「全労働生産性および全要素生産性から見た IT 化の経済効果」(経済統計学会 第53回全国研究大会, 北海学園大学)	2009.9
中西 仁	著書(共著)	『教育基礎論』(サンライズ出版) 134-138頁	2009.4
	著書(共著)	『教室が白熱する身近な問題の法学習15選』(明治図書) 114-122頁	2009.10
	論文(単著)	「小中連携を目指した授業づくり」(『教職基礎論』, サンライズ出版) 134-138頁	2009.4
	論文(単著)	「特別支援の学校態勢・チェックポイントはここだ」(『学校マネジメント』630号, 明治図書) 26-29頁	2009.5
	論文(単著)	「なぜ携帯電話を学校に持ち込んではいけないの?」(『教室が白熱する身近な問題の法学習15選』, 明治図書) 114-122頁	2009.10
	論文(単著)	「啓発型人権学習からシティズンシップ型人権学習へ—「気楽」で「楽しい」人権学習はありか?—」(『京教社会』14号, 京都教育大学社会系教育研究会) 22-31頁	2009.12
	論文(単著)	「“モノ”で語る戦争体験の発掘 軍馬でも「ぜいたくは敵」か?」(『社会科教育』610号, 明治図書) 101頁	2010.1
	論文(単著)	「問題解決学習と中学校新指導要領」(『考える子ども』327号, 社会科の初志をつらぬく会) 21-25頁	2010.1
	中西 典子	論文(単著)	「持続可能な社会的介護をめざして」(『人それぞれ介護のステージ—続・高年期の生き方—』, 丸善) 6-12頁
論文(単著)		「英国のコミュニティ・ケア改革とパートナーシップ政策—イースト・ロンドンのタワー・ハムレッツ区を事例に—」(『地域創成研究年報』第5号, 愛媛大学地域創成研究センター) 121-145頁	2010.3
教育実践報告 (共著)		「福祉デザインフォーラム」(『愛媛大学教育学部総合人間形成課程 人間社会デザインコース 研究報告書』第2号, 愛媛大学教育学部総合人間形成課程 人間社会デザインコース) 25-36頁	2010.3
書評(単著)		「鯉坂学・小松秀雄編『京都の『まち』の社会学』, 世界思想社」(『同志社時報』127号, 学校法人同志社) 101頁	2009.4

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中西 典子	学会発表 (共同)	「ロンドン貧困地区におけるパートナーシップ政策とサードセクター組織(1)—地域戦略パートナーシップを事例に—」(地域社会学会第34回大会, 岡山大学)	2009.5
	学会発表 (共同)	「ロンドン貧困地区におけるパートナーシップ政策とサードセクター組織(2)—『社会的企業論』再考—」(地域社会学会第34回大会, 岡山大学)	2009.5
永橋 為介	論文(单著)	「『場所の力』を引き出すtrans-activeなやりとりの考察—大阪釜ヶ崎とマサチューセッツ州ケンブリッジ市ダナ公園の事例から—」(『ヒューマンセーフティ研究』2009年2号, 立命館大学産業社会学部ヒューマンセーフティ研究会) 1-15頁	2009.12.20
	報告書(单著)	「豊かな森をめざして—企業で取り組む森林保全活動—」(発行元:京のアジェンダ21フォーラム), 全22頁(A4版)	2010.3
仲間 裕子	著書(共編著)	『芸術はどこから来てどこへ行くのか』(見洋書房) 179-195頁	2009.5
	論文(单著)	「自然を発見する?—ロマン主義的表象の再考」(『思想』, 岩波書店) 6-27頁	2009.10
	論文(单著)	“Aesthetics of Silence — Considering East Asian Contemporary Art Exhibitions in Japan” (The Journal of Asian Arts & Aesthetics, vol.2, The Asian Society of Arts & Airiti Press Inc.) pp.1-6	2009.6
	学会発表 (単独・国外)	“Rethinking the Aesthetics of Nature as a ‘Global’ Vocabulary: In Discourse of Romantic Representations in Intercultural Scenes” (Colloquium: GIMME SHELTER, Global discourses in aesthetics, International Association for Aesthetics, University of Amsterdam)	2009.10
	学会発表 (単独・国外)	“Euphoria of Public Art” (The 7 th International Conference, The Asian Society of Arts, China Congress, Xiangfan University)	2009.10
浪田 陽子	論 文 (分担執筆)	「カナダのメディア教育」(日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』, 有斐閣) 116-117頁	2009.4
	書評(单著)	「加藤恵津子著『自分探し』の移民たち:カナダ・バンクーバー, さまよう日本の若者」彩流社, 2009.10(『ニューズレター』第85号, 日本カナダ学会) 5-6頁	2009.11
	講演(単独)	「情報メディアの発展と私たちの暮らし」(甲西図書館開館20周年記念 湖南市立図書館講座, シリーズ:情報技術の発達と暮らしの変化(第1回目担当), 湖南市立図書館)	2009.6
	学会発表 (単独)	「カナダにおけるメディア教育の実践と課題—BC州の高等学校の事例を中心に—」(日本カナダ学会関西地区研究会, 大阪学院大学)	2010.3
	著書(单著)	『アメリカの医療保障 グローバル化と企業保障のゆくえ』(昭和堂) 全249頁	2010.2
長谷川千春	論文(单著)	「アメリカ医療保険市場における消費者主導型医療プランの展開」(『同志社商学』61巻4-5号, 同志社大学商学会) 269-297頁	2010.1
	論文(单著)	「アメリカ・マサチューセッツ州における医療改革—『加入義務化』と『共同責任』の実態についての考察」(『生命保険論集』170号, 生命保険文化センター) 113-151頁	2010.3
	論文(单著)	「『民族』を表象する学校—映画で描かれる総連系民族学校」(鈴木正崇編『東アジアの民衆文化と祝祭空間』, 慶応大学出版会) 151-175頁	2009.12

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
東 自由里	その他(単著)	コラム 現代のことば「ミュージズのまなざし」(『京都新聞』, 夕刊, 5月12日) 2頁	2009.5
	学会発表 (単独, 国外)	“Exploring the Moral Dimension of Citizenship Education in Asia and the Pacific” (38th Annual Conference, Philosophy of Education Society of Australasia, Imin Conference Center, East-West Center, Honolulu, Hawai'i)	2009.12
樋口 耕一	論文(共著)	「児童養護施設内における暴力内容に関する調査研究—暴力の全体的傾向」(『心的トラウマ研究』5, 兵庫県こころのケアセンター) 19-27頁	2009.11
	研究ノート (共著)	「フリーソフトウェアを用いた Web 調査の実践—社会調査実習における活用事例から—」(『立命館産業社会論集』45巻3号) 69-82頁	2009.12
	学会発表 (共同)	「児童養護施設内における暴力の実態(1)—全体的な傾向」(日本子ども虐待防止学会第15回学術集会埼玉大会, 大宮ソニックシティ)	2009.11
	学会発表 (共同)	「児童養護施設内における暴力の実態(2)—子ども間について」(日本子ども虐待防止学会第15回学術集会埼玉大会, 大宮ソニックシティ)	2009.11
	学会発表 (単独)	「普及過程から見る Web の特徴—採用者が半数を超える前後の繰り返し調査から」(第49回数理社会学会大会, 立命館大学)	2010.3
日暮 雅夫	研究発表 (単独)	「ハーバースマス討議理論とホネット承認論の形成と対比」(科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会, 東北大学川内キャンパス)	2009.8.1
	研究発表 (共同)	コメント「承認をめぐる闘争と格差社会」(「労働と承認—ジェンダーから見た社会的正義—」(アクセル・ホネット教授招待講演, 明治大学ジェンダーセンター開設記念シンポジウム, 明治大学リパティタワー)	2010.3.22
日高 勝之	学会発表 (単独)	「モダンシティと再帰性—『昭和ノスタルジア』映画における東京タワーの表象—」(日本コミュニケーション学会・関西大会, 京都ノートルダム女子大学)	2009.11.28
深澤 敦	論文(単著)	「フランス家族政策の歴史的展開—家族手当を中心に」(『経済』No.170 (2009年11月号), 新日本出版社) 141-159頁	2009.11
	学会報告 (単独)	「フランスにおける1930年代の大恐慌と社会保険・家族手当」(政治経済学・経済史学会2009年度秋期学術大会共通論題報告, 岡山大学)	2009.10.25
	学会報告 (単独)	「第二次大戦後のフランスにおける家族政策の展開」(経済理論学会第57回大会(創立50周年記念大会)第1分科会「ジェンダーと家族」報告, 東京大学)	2009.11.22
福間 良明	著書(共編著)	『博覧の世紀—消費／ナショナリティ／メディア』(粹出版社) 227-307頁	2009.7
	著書(共著)	『メディア文化を社会学する—歴史・ジェンダー・ナショナリティ』(世界思想社) 161-185頁, 244-265頁	2009.12
	論文(単著)	「『戦争体験』という教養—「わだつみ」の戦後史」(『史林』93巻1号, 史学研究会) 163-196頁	2010.1
	論文(単著)	「戦後沖縄と戦争体験論の変容(1)—終戦から『鉄の暴風』発刊まで」(『立命館産業社会論集』45巻4号) 31-44頁	2010.3
	研究発表 (単独)	「戦争体験の変容と教養主義」(第7回先端社会研究所定期研究会「共同研究：戦争が生み出す社会」, 関西学院大学)	2009.11

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
宝月 誠	論文(単著)	「食品企業の逸脱事例とその解釈」(『ヒューマンセーフティ研究』2号, 立命館大学産業社会学部ヒューマンセーフティ研究会) 49-71頁	2009.12
	論文(単著)	「シカゴ学派社会学の理論的視点」(『立命館産業社会論集』45巻4号) 45-65頁	2010.3
前田 信彦	調査報告 (単著)	「日本の労働生活の変容—1990年代以降の動向: 労働社会の個人化と『関係性の貧困』の時代」(ワーク・ライフ・バランスの企業での実施に関する瑞, 蘭, 日の比較研究, 平成19-21年度科学研究費(研究代表 篠田武司) 報告書) 137-153頁	2010.3
	学会発表 (単独)	“Quality of Working Life after 1990s to 2000s in Japan” (Global Economic Crisis and Socio- Cultural Changes: International Academic and Postgraduate Symposium, Chung-Ang University in Seoul, Korea)	2010.3
増田 幸子	研究ノート (単著)	「北京オリンピック開会式テレビ中継の日中比較(上)」(『立命館産業社会論集』45巻2号) 61-73頁	2009.9
	研究ノート (単著)	「北京オリンピック開会式テレビ中継の日中比較(下)」(『立命館産業社会論集』45巻3号) 53-67頁	2009.12
	その他(単独)	「映像における東アジアの相互理解」(「地方の時代」映画祭2009, 関西大学)	2009.11.22
松田 亮三	著書(共編著)	松田亮三・棟居徳子編『健康権の再検討: 近年の国際的議論から日本の課題を探る』(『生存学研究センター報告9』, 立命館大学生存学研究センター) 全99頁	2009.12
	著書(共編著)	Tatara K, Okamoto E. (edited by Salla Allin and Ryozo Matsuda) “Japan: Health system review” (Health Systems in Transition, 11(5): pp.1-164. http://www.euro.who.int/Document/E92927.pdf) (World Health Organization on behalf of the European Observatory on Health Systems and Policies)	2009
	論文(単著)	「ブレア政権下のNHS改革—構造と規制の変化」(『海外社会保障研究』NO.169, 社会保障研究所) 39-53頁	2009.12
	論文(単著)	「ワーク・ライフ・バランスと健康」(科学研究費「ワーク・ライフ・バランスの企業での実施に関する瑞, 蘭, 日の比較研究」報告書, 代表: 篠田武司, 立命館大学産業社会学部) 87-103頁	2010.3
	論文(単著)	「医療における対人援助のこれから」 in 望月昭・サトウタツヤ・中村正・武藤崇編『対人援助学の可能性—「助ける科学」の創造と展開』(福村出版) 185-207頁	2010.3
	調査報告 (単著)	“A New Rule for Setting Premium Rates” (Health Policy Monitor, April 2009. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a13/1) (松田亮三「保険料率設定の新方式」医療政策モニター報告)	2009.4
	調査報告 (共著)	Tomizuka, T and Matsuda, R. “Introduction of No-Fault Obstetric Compensation” (October 2009. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a14/4) (富塚太郎・松田亮三「産科医療補償制度の創設」医療政策モニター報告)	2009.10
	調査報告 (単著)	“ICT in health care” (October 2009. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a14/3) (松田亮三「医療におけるICT」医療政策モニター報告)	2009.10

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
松田 亮三	調査報告 (単著)	“Health Care Policy of the New Government” (October 2009. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a14/2) (松田亮三「新政権の医療政策」医療政策モニター報告)	2009.10
	調査報告 (単著)	“Review of Mental Health Care Reform” (October 2009. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a14/1) (松田亮三「精神医療改革の中間評価」医療政策モニター報告)	2009.10
	その他 (分担執筆)	「医療制度」「医療保険」「エンパワメント」「介護保険制度」「健康保険制度」「公衆衛生」「在宅療養支援診療所」「診療報酬」「地域保健」「長寿医療制度」「福祉国家」「療養病床」(望月昭・中村正・サトウタツヤ編著「対人援助学」キーワード集, 晃洋書房)	2009. 4
松葉 正文	論文(単著)	“Civil Society and Economic Inequality: Preliminary Essay” (『立命館産業社会論集』45巻1号) 189-205頁	2009. 6
	翻訳(単訳)	「市民と市民性の意味変換について」(『立命館産業社会論集』45巻2号) 75-84頁	2009. 9
	翻訳(単訳)	「ドイツ連邦政府の第3回「貧困と富裕に関する報告」(抄訳・上)」(労働・社会省作成, 2008年7月発表)(『立命館産業社会論集』45巻3号) 83-105頁	2009.12
	翻訳(単訳)	「ドイツ連邦政府の第3回「貧困と富裕に関する報告」(抄訳・下)」(労働・社会省作成, 2008年7月発表)(『立命館産業社会論集』45巻4号) 123-143頁	2010. 3
丸山 里美	その他(単著)	「新自由主義下の都市居住—イギリスのスクウォット運動」(『オルタ』2009年5・6月号, アジア太平洋資料センター) 32-34頁	2009. 6
	その他(単著)	「ソーシャルセンター」(『VOL Lexicon』, 以文社) 86-87頁	2009. 7
	その他(単著)	「スクウォット」(『VOL Lexicon』, 以文社) 105頁	2009. 7
峰島 厚	著書(共著)	『障害者の暮らしの場をどうするか?—グループホーム・ケアホームで働く195人のタイムスタディから考える』(障害者生活支援システム研究会編, 峰島分担「序章入所施設か, グループホーム・ケアホームか, ではなく」10-14頁, かもがわ出版) 全95頁	2009. 5
	著書(共編著)	『特別支援教育大事典』(編集代表茂木俊彦, 編集委員峰島厚ほか11名(峰島は社会保障・社会福祉, 雇用就労, 生活の3章を統括), 旬報社) 全1043頁	2010. 3
	論文(単著)	「なぜ政府は応益負担にしがみつくの—障害者自立支援法3年見直しの動向と課題」(『前衛』09年5月号, 日本共産党中央委員会出版局) 69-78頁	2009. 5
	論文(単著)	「所得保障施策の動向と課題」(『発達障害研究』31巻4号, 日本発達障害学会) 296-301頁	2009. 9
	論文(単著)	「障害者自立支援法の廃止と今後の障害者施策」(『手話通訳問題研究』111号, 全国手話通訳問題研究会) 39-43頁	2010. 3
	調査報告 (共著)	「入所施設からの転換モデル事業の調査研究 入所施設は変格をおそれる—利用者の暮らしと住まいを支える新しい転換を—」(平成20年度厚生労働省障害者自立支援調査研究プロジェクト(代表桜井康宏) 峰島分担「第6章制度改革への意見」, 社会福祉法人ハスの実の家・入所施設からの転換モデル事業検討委員会) 全176頁	2009. 5. 1

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
峰島 厚	調査報告 (単著)	「障害者の自立支援と地域サポート体制づくり」(平成21年度舞鶴市基幹型障害児・者支援センター構想調査研究事業報告書, 舞鶴市福祉部高齢・障害福祉課) 全13頁	2010.3
	調査報告 (共著)	「知的障害者の暮らし実態調査報告—家計を中心に」(障害者生活支援システム研究会・暮らしの場研究グループ(代表・峰島厚), NPO 法人大阪障害者センター) 全73頁	2010.3
	教育実践報告 (共著)	「住み慣れた地域のなかで一顧いを受けとめる支援とネットワークづくり」(社会福祉法人ゆたか福祉会第16回実践研究集会報告集, 社会福祉法人ゆたか福祉会) 24-44頁	2009.7
森田 真樹	その他(単著)	「学会分科会報告」(日本グローバル教育学会ニューズレター, 日本グローバル教育学会) 1頁	2010.1
	学会発表 (共同)	「教職大学院の現状と課題—京都連合教職大学院の場合—」(全国私立大学教職課程研究連絡協議会 第29回研究大会, 福山大学)	2009.5
柳澤 伸司	論文(単著)	「日本型NIEの課題と展望—さらなる新聞(ジャーナリズム)研究に向けて—」(『日本NIE学会誌』第5号, 日本NIE学会) 151-158頁	2010.3
山下 秋二	論文(共著)	「生徒が判断する体育授業の構成要因の検討—校種間差及び性差の観点から—」(『日本教科教育学会誌』32巻2号, 日本教科教育学会) 11-20頁	2009.9
山下 高行	論文(単著)	「企業スポーツと日本のスポーツレジーム」(日本スポーツ社会学会編『スポーツ社会学研究』17巻2号, 創文企画) 17-31頁	2009.9
	論文(単著)	「スポーツとヘゲモニー: J.ハーグリーブス『スポーツ・権力・文化』」(井上俊, 伊藤公雄編『社会学ベーシックス 身体・セクシュアリティ・スポーツ』, 世界思想社) 229-238頁	2010.2
	その他(単独)	「韓国におけるスポーツ政策の展開と課題」(日本スポーツ社会学会第19回大会, 岩手大学)	2010.3.29
山下 芳樹	著書(共著)	『授業に役立つ理科教育法(小学校編)』(東京書籍) 全271頁	2009.4
	著書(共著)	『授業に役立つ理科教育法(中・高等学校編)』(東京書籍) 全300頁	2009.4
	著書(分担)	『知っておきたい最新科学の基本用語』(技術評論社) 全431頁	2009.5
	著書(分担)	『物理の疑問(身近に感じる不思議編)』(技術評論社) 全220頁	2009.6
	著書(分担)	『物理の疑問(科学の不思議が楽しく分かる)』(技術評論社) 全222頁	2010.1
	論文(単著)	「理科のできる高校生の記録」(『理科大科学フォーラム』, 東京理科大学) 30-37頁	2009.4
	論文(単著)	「遊びから入るからこそ実感がわく実験—遊具シーソーからはじめる自由度のある実験—」(『化学と教育』Vol.57, No4, 日本化学会) 180-181頁	2009.4
	学会発表 (共同)	「科学実験教材研究年報発刊に何を期待するか—NPO 法人サイエンスE ネットの挑戦—」(京都大学基礎物理学研究所研究会「科学としての科学教育」, 京都大学)	2009.8
学会発表 (単独)	「今こそ子ども達に「原体験」の機会を」(クルマ体験セミナー, 出版会館)	2009.8	
山本 耕平	論文(単著)	「若者のひきこもりを精神保健福祉課題としてどう同定するか」(『立命館産業社会論集』45巻1号) 15-33頁	2009.6
	論文(単著)	「障害者の地域生活を支援する専門職の役割」(『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』, Kumi) 150-157頁	2009.6

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
山本 耕平	論文(単著)	「地域ネットワークの構築」(『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』, Kumi) 158-165頁	2009. 6
	論文(単著)	「共生社会をめざして」(『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』, Kumi) 168-178頁	2009. 6
	学会発表 (単独)	「障害者自立支援法の背景となる障害者観と進む精神障害者の社会的排除」(第52回日本病院・地域精神医学会総会, 和歌山市民会館)	2009. 9
リム ボン	著書(共著)	『京町家の再生』(光村推古書院) 4-7, 77-91頁	2009. 6
	著書(共著)	『医療生協連合会の力(ちから)を考える』(日本生活協同組合連合会医療部会) 23-32, 56-59頁	2009. 9
	著書(共著)	『まちづくりコーディネーター』(学芸出版社) 3-4, 8-39, 219-221頁	2009. 9